参考資料３

大阪市における地域福祉にかかる実態調査（令和元年度実施）

実態調査概要（調査対象）

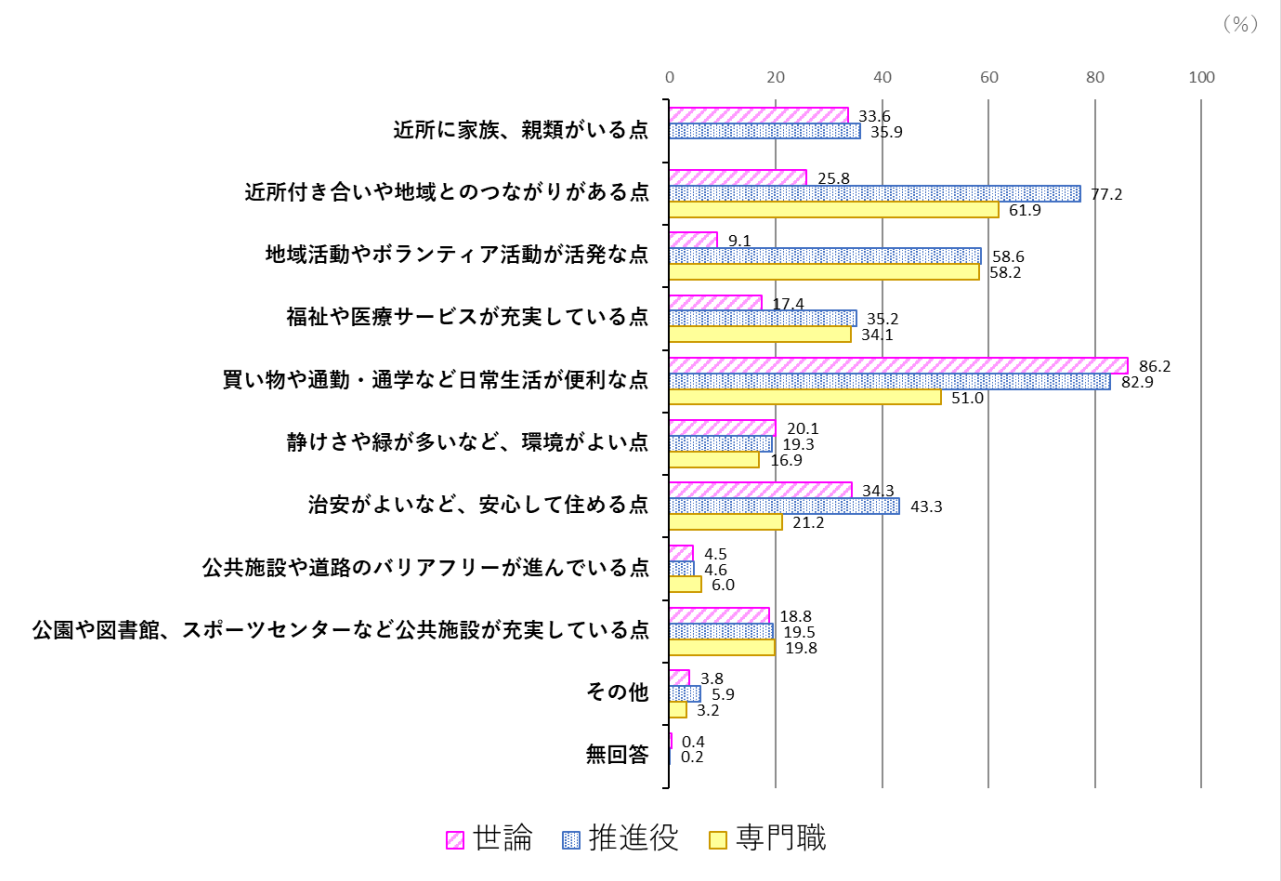
・世論調査：無作為抽出した 18 歳以上の市民　8,000 人

・推進役調査：民生委員地区委員長、地域福祉コーディネータなど　計 613 人

・福祉専門職調査：見守り相談室職員、生活支援コーディネータ、
相談支援機関職員（高齢・障がい・児童・生活困窮）、
社協の地域支援担当職員　計 514 人

■居住地域の暮らしやすさについて

○各調査（質問 1-1）　居住(担当)地域の暮らしやすさを感じる点（複数選択）

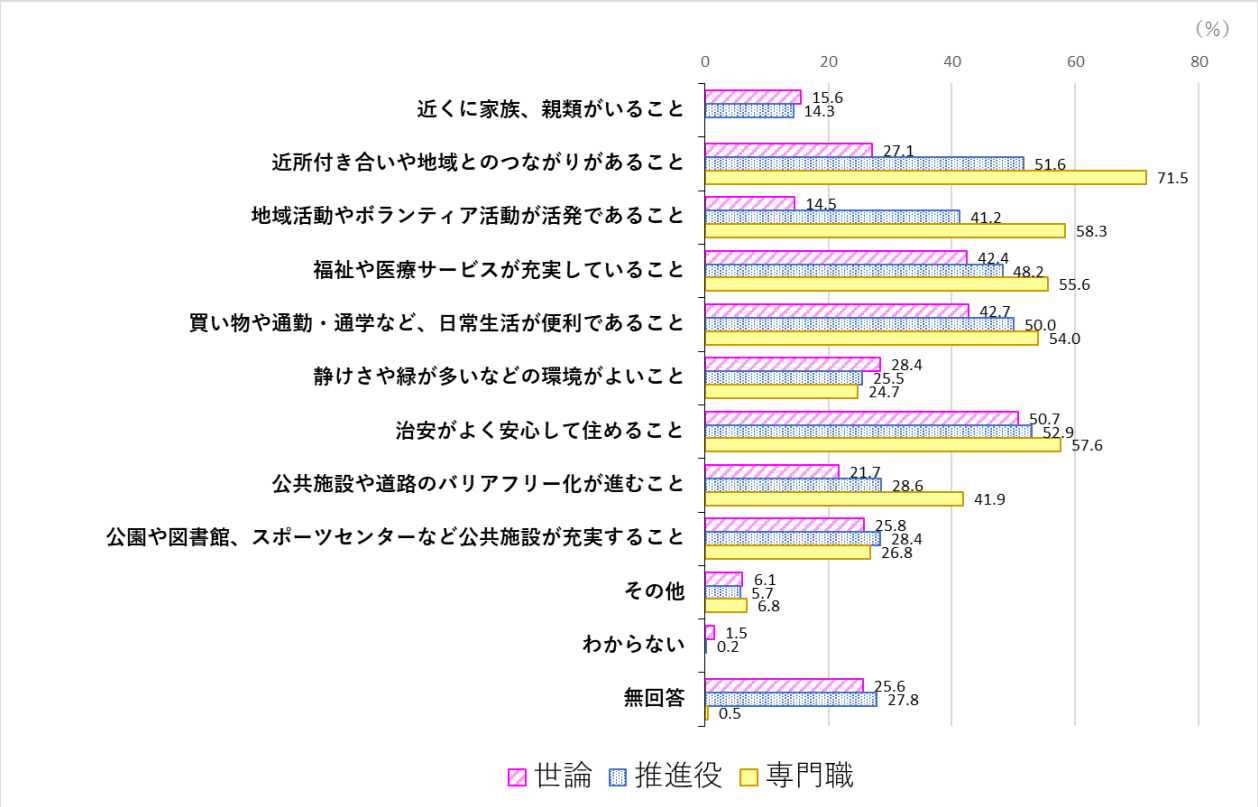


世論調査では、地域で暮らしやすさを感じる点について「買い物、通勤・通学など日常生活が便利な点」（86.2%）が突出して高く、次いで、「治安のよさ」（34.3%）であった。

「近所や地域とのつながりがある点」との回答は全体 25.8%であった。20 歳代で 5.6%であるが、80 歳以上では 41.9%まで上昇するなど、年齢が上がるに伴って高くなる傾向がみられた。

この点、推進役調査では、同じく「買い物、通勤・通学など日常生活が便利な点」（82.9%）が最も高い結果であったが、次いで多かったのは「近所付き合いや地域とのつながりがあること」（77.2%）との回答であり、福祉専門職では「近所付き合いや地域とのつながりがあること」（61.9%）が最も高くなった。

○各調査（質問 2）　より暮らしやすい地域であるために必要なこと（複数選択）



「より暮らしやすい地域であるために必要なこと」についても、世論調査では「治安がよく安心して住めること」（50.7%）、「買い物、通勤・通学など日常生活が便利であること」（42.7%）が比較的多く選ばれる傾向があった。「近所付き合いや地域とのつながりがあること」は 27.1%であり、80 歳以上でも 38.8%に留まった。

いっぽう推進役調査、専門職調査では、「近所付き合いや地域とのつながりがあること」が選ばれる傾向にあった。

■地域とのつながりについて

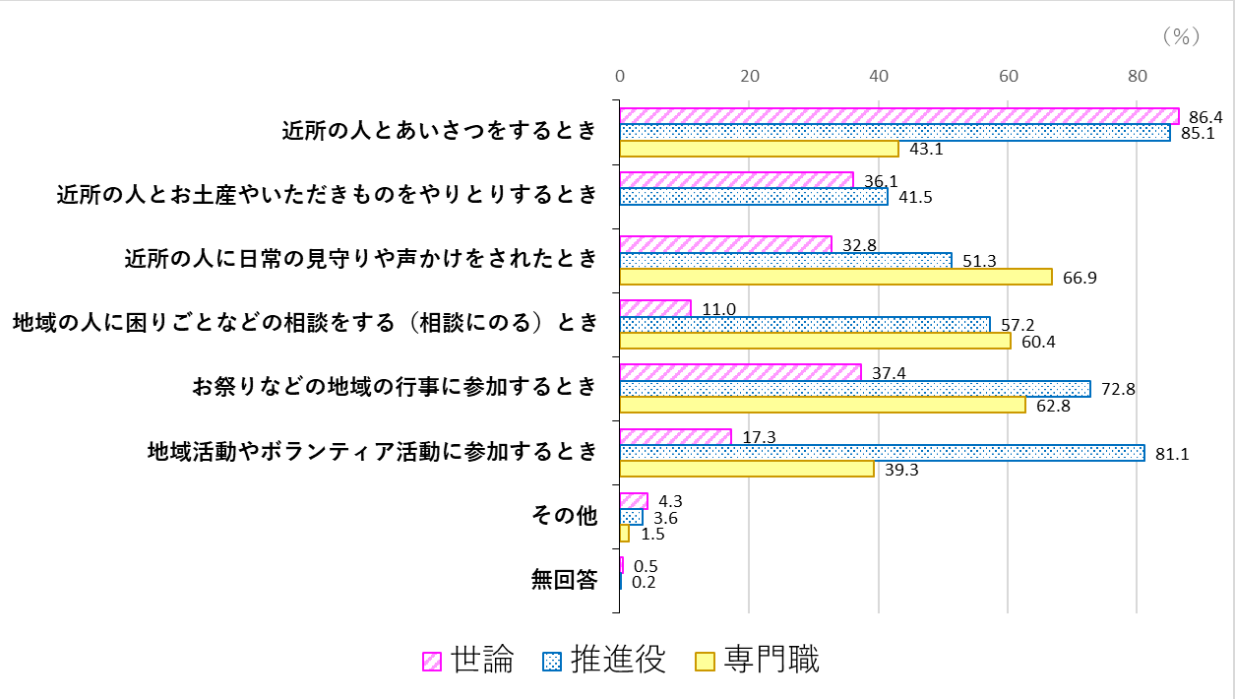
次に、どのような場合に地域との「つながり」を感じるか等に係る調査結果を確認した。

・地域との「つながり」を感じるとき

世論調査・・・「近所の人とあいさつをするとき」（86.4%）、「お祭りなどの地域の行事に参加するとき」（37.4%）、「近所の人に日常の見守りや声かけをされたとき」（32.8%）

推進役・・・・「近所の人とあいさつをするとき」（85.1%）、「地域活動やボランティア活動に参加するとき」（81.1%）、「お祭りなどの地域の行事に参加するとき」（72.8%）

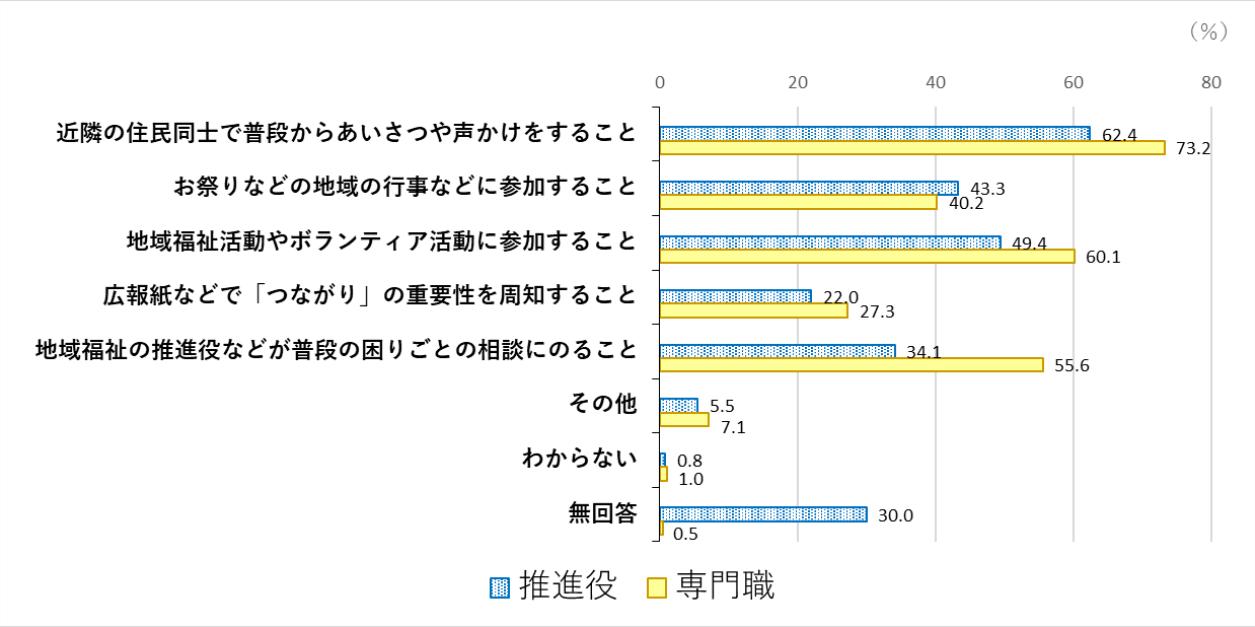
専門職・・・・地域における日常の見守り活動があることや、地域行事に多くの人が参加していることを、「つながりのある地域であると思う理由」としてあげている。



26

・「つながり」を実感できるためより推進すべきこと

推進役、専門職どちらにおいても、「近隣の住民同士で普段からあいさつや声かけをすること」（62.4%、73.2%）、次いで「地域福祉活動やボランティア活動への参加」（49.4%、60.1%）、であった。その他、自由回答から、防災の観点からの「つながり」の重要性が読み取れた。

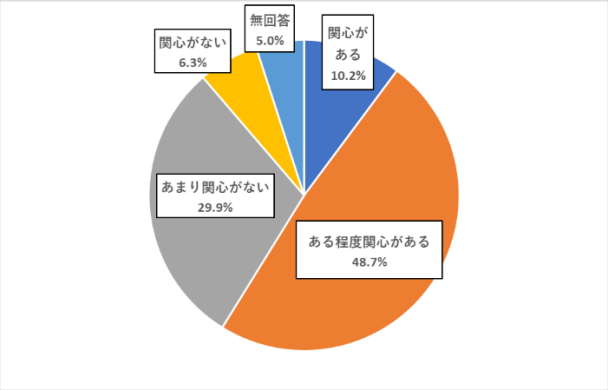


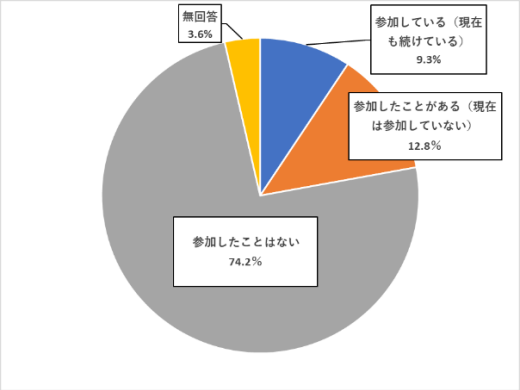
26
26

27

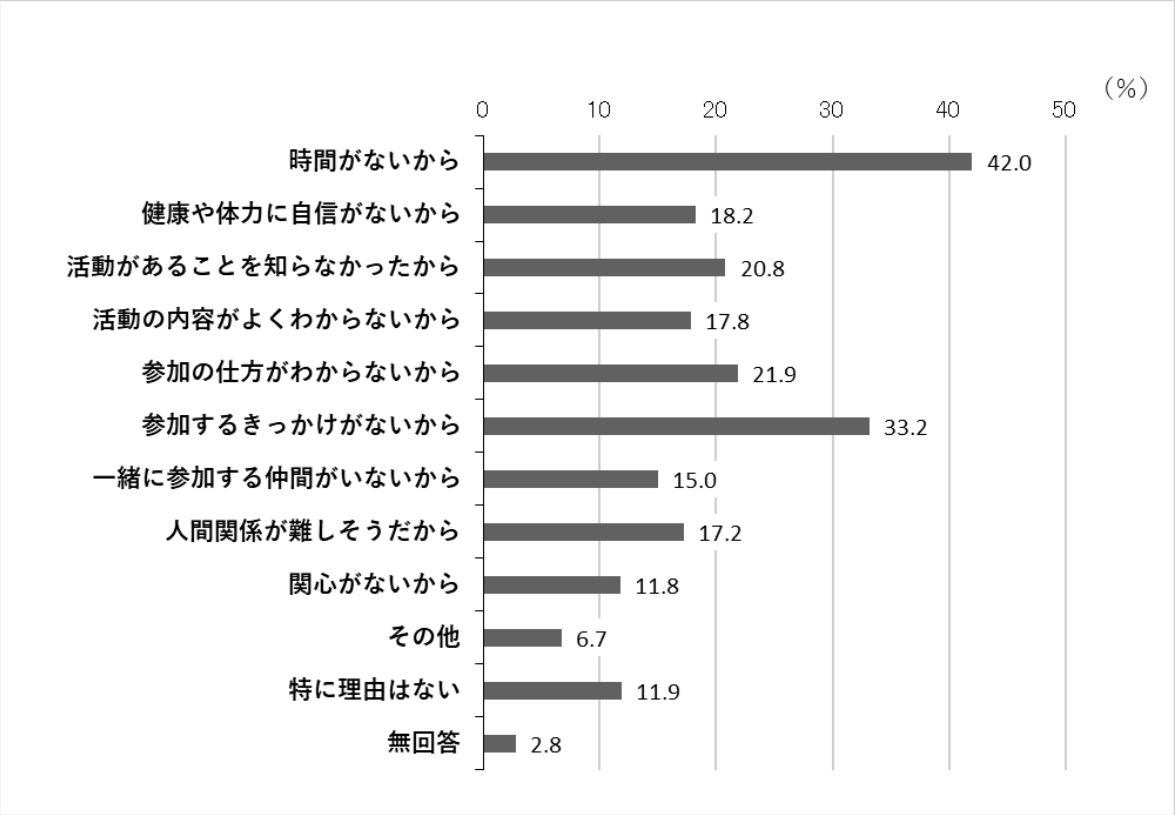
■地域福祉活動に参加しない理由と参加した場合の負担感について

・世論調査においては、地域福祉活動への関心度は「関心がある」「ある程度関心がある」合わせて58.9%である一方で、74.2%が「参加したことがない」と回答。



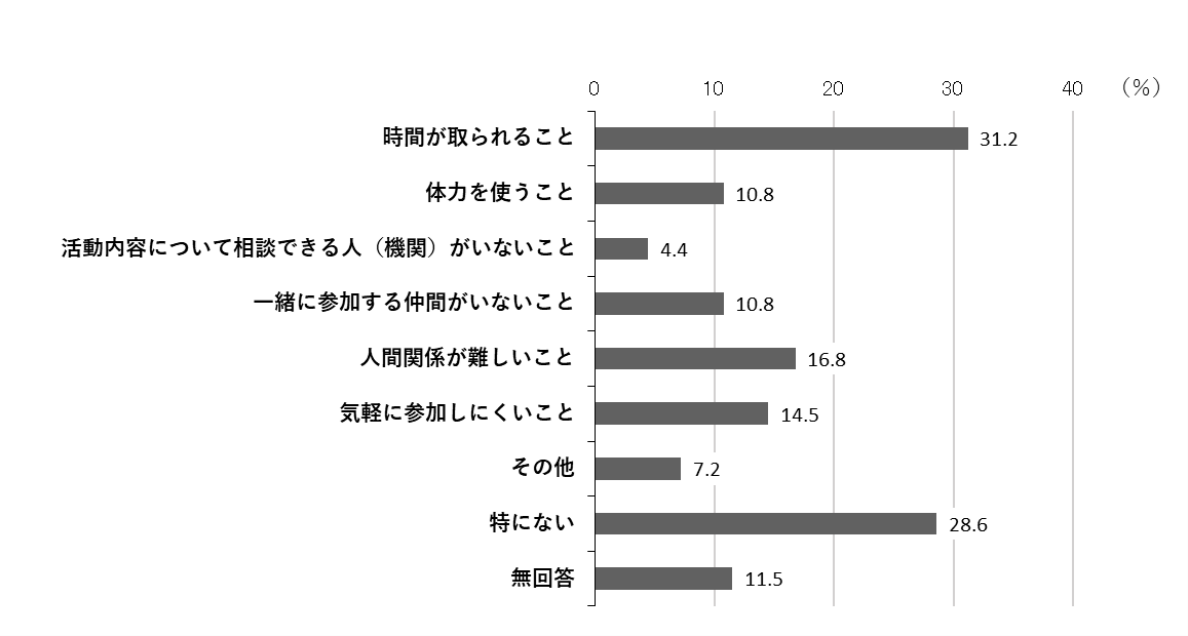
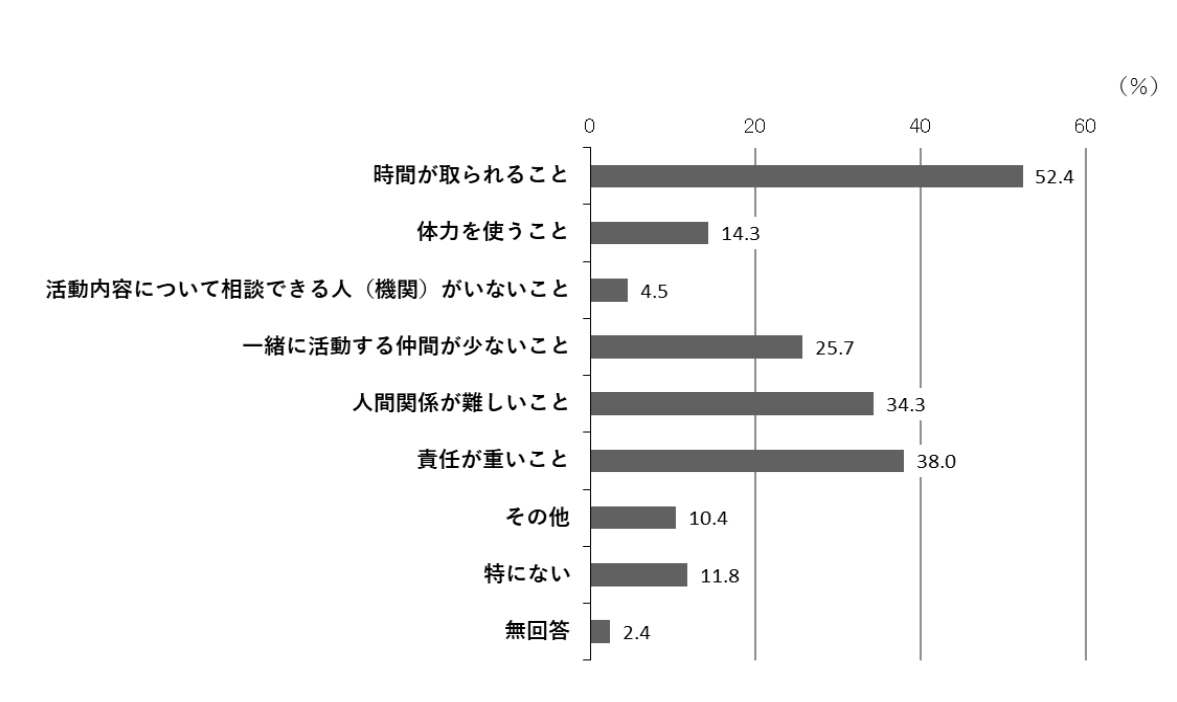


・参加しなかった理由としては、「時間がない」（42%）、「きっかけがない」（33.2%）、「参加方法が分からない」（21.9%）、「活動を知らない」（20.8%）となっている。



27
27

・参加した際に感じた負担としては、「時間がとられること」（31.2%）、「人間関係が難しいこと」（16.8%）、「気軽に参加しにくいこと」（14.5%）があげられている。



・また、推進役においても、地域福祉活動を担う上での負担について、「時間がとられること」（52.4%）、次いで「責任が重いこと」（38%）があげられている。